

太田市住民協議会（第1回）
議事概要

第 1 分科会

区分	第 1 分科会
コーディネーター	構想日本 総括ディレクター 伊藤伸
日時	2017年7月22日(土) 15時20分～17時00分
場所	太田市役所 6階 6A会議室

主な論点

太田市の印象について

- コ) 結婚を機に移住した人など違うところから来ている人が多いようだ(生まれてからずっと太田市に住んでいる人は3人)。
太田市は都会だろうか田舎だろうか、どう感じるか。
- 委) 車がないと移動できないから、田舎だと思う。東京ではそんなことはない。
- コ) ほぼ一人一台車を持っており車社会なのは確かなようだ。
また、JRが通っておらず、東京からのアクセスなど公共交通という点では不便かもしれない。
- 委) 公共交通は不便だが、コンビニが多くて便利。駐車場も広いし良い。
- コ) 私は今日で太田市に来たのが3回目だけれど、比較的都会と感じている。
広さだったり工場の多さだったり、建物の1つ1つが大きい、人口も20万もいる。
- 委) 館林市に住んでいるが、大きなショッピングモールがない。
- コ) 休みの日はどこに行くのだろうか。市内で完結するのだろうか。それとも市外へ出ていくのだろうか。
- 委) 伊勢崎市へ行く。
- 委) 市内で事足りる。
- 委) 大体の買い物は市内で済むが、友人との買い物は東京へ行く。

運動について

- 委) 日常の中で運動を取り入れようと思っている。自転車に乗るようにしていて、今日も35分かけて新田から来た。
- 市) 孫が小学校1年生だが、7時半に登校するときに、孫の成長を感じつつ、一緒に歩いて行っている。歩いて効果があるかわからないけれど、歩いている。
- 委) ウォーキングしていたが、高齢で痛くて断念。どれくらいの運動量が自分に合っているか分からない。
- 市) 体調もあるので、自分でできる範囲でいいのではないかと。いままでやっていた家事ができるかどうかという事が基準になるかもしれない。
- 委) 運動公園のウォーキングコース(トリムコース)のような施設が他にもあればいいと思う。しかし、明かりが暗い。仕事終わりでも安全に歩けるような環境になるといい。特に女性は夜歩くと怖さを感じる。
- 市) トリムコースの夜間の明かりが暗いという指摘は以前から受けている。時間によってはあえて電気を消している。明るくし過ぎると近隣住宅からの苦情もある。足元の明かりについては今後考えたい。
ウォーキングできる施設は市内に何か所かあるが、基本的に24時間自由に使える。夜中や朝5時に歩く人もいる。使用禁止にはできないし、どこまでサポートするかという事もあるが、利用者へはマナーを守るようお願いしている。

- コ) 他自治体の事例で、地域の防犯灯が少ないという意見がこのような協議会の場に出たことがある。町としては防犯灯の数をある程度決めていたが、地域から設置したいという要望があれば補助金を出すという制度もあった。
行政が全てを決めるのは難しい。地域でどのくらいの量が必要でどのくらいの費用負担を自分たちでできるかを考える必要がある。

精神面やコミュニティについて

- 委) 文化系なのでなかなか運動しない。いろいろしてみたが続かない。
最近では落語に行って笑っている。思いっきり笑って、すっきりして、ストレス発散している。旅行も好きなので、積極的に出かけるようにしている。県内だと温泉施設も多いので、心の洗濯というか、メンタルの健康に心がけている。
- コ) 自分で意識をポジティブに持つていくことによって笑いが起こる。行政は硬い表情とする会議が多いが、今日の雰囲気はそうではない。
- 委) 太極拳を 2 年続けている。中国に行ったとき、毎朝太極拳の音で起きていた。公園に来るのはお年寄りが多く、健康にもコミュニティにもよいと思った。
太極拳はほかのスポーツに比べ、子どもから大人までできる。心の健康を整える効果もあるといわれている。
- 委) 尾島の利根の湯でアルバイトをしているが、温泉の広場の中でコミュニティがある。もっと増えていけばいいと思う。
- 委) 20 代で子どもを出産し、生活ががらりと変わった。相談できる人はたくさんいるが、夫や母に言えない悩みに疲れることもあった。孤独を感じて、これが何十年も続いていくのかと弱っていく自分を実感した。
そんなときに、ある保健師さんに会って、悩みを共有してもらい、一言「頑張ってるね」と言ってもらえたことが大きかった。また子どもと向き合えるようになった。単に身体を動かす健康だけでなく、心の健康も一緒になっていないとダメだと感じた。
- 市) 毎年、1800 人の赤ちゃんが生まれているが、なるべく全ての方を訪問している。顔を見ることが大事だと考えている。

食事や睡眠について

- 委) 現在育休中で、母乳に気をつけている。
また、授乳中だと 2 時間間隔で授乳なので、睡眠があまりできていない。運動だけでなく、食事や睡眠で気をつけるのも健康づくりではないか。
- 委) 埼玉の大学に通っているので、親戚の家の下宿している。今までは母が料理を用意してくれてバランスが整っていたし、誰かと食べていた。食事面でも気をつけなれないといけないと思っている。

今回の総括、次回の方針など

- 委) 私は子育て世代になるので、働きながら子育てする親としての立ち位置での見方をしていた。今日の分科会で話をしてみて、他の人より偏った意見を持っていたのだと感じた。
- コ) 体を動かすこと以外にも精神面での健康、社会参加によるコミュニティの話なども出た。今日の場をきっかけにし、次回までに考えるだけでもいいので、何か行動していただければと思う。

第2分科会

区分	第2分科会
コーディネーター	足立区 地域のちから推進部 スポーツ振興課長 山根晃
日時	2017年7月22日(土) 15時20分～17時00分
場所	太田市役所 6階 6B会議室

主な論点

食事について

- コ) 健康と聞いてピンとくるのはどのようなことだろうか。どのようなことに一番気を付けているだろうか。
- 委) 生活習慣が大事だと思う。食事で野菜を多くとったりしている。
- 委) 農協の直売所や道の駅などで新鮮な野菜が手に入るが、親が農家をやっているので、新鮮な野菜が手に入りやすい。近所で農家をされている人から野菜をもらうことも多い。
- コ) 外食に行く機会はどれくらいあるだろうか。どちらかというとな家で食べることが多いのだろうか。
- (家で食べる人が多いという意見が多数)
- コ) 小さいお子さんをお持ちの家庭では何か食事について工夫しているだろうか。
- 委) 1歳半になる息子がいる。最近は食事のアプリなどを活用しているが、幼児向けのメニューは豊富とは言えない。市の広報紙や検診とかで小さい子供用の食事メニューなどを紹介してもいいのではないだろうか。
- コ) 子育て支援の意味も出てくるかもしれない。子育てというと、先輩ママ・パパとの付き合いで情報を得たりすることもあると思うがいかがだろうか。
- 委) 我が家は共働きで保育園に子供を預けたあとはすぐ職場に向かうので、なかなか子育て情報を得づらい。
- コ) 今の日本は色々な食べものに溢れていて、なんでも食べられる状況にある。「食育」は健康のキーワードになると思う。毎日食べるものなので、健康への影響は大きい。
- 委) 私は料理を妻に任せているので、妻が用事でいなくなると、レンジの使い方もわからない。甘いものが大好きなので、一人でいるとついつい甘いものばかり食べてしまう。
- 委) ちょっと食事に気を付けると、健康診断に表れる。普段の食事の影響は大きいのだと思う。
- コ) 市の検診では診断結果などが悪い場合どのような対応をしているのだろうか。
- 市) 市の行う検診を受診した人で、結果があまりよくない人には個別に案内をしているケースもある。

運動について

- コ) 運動という点ではどうだろうか。体を動かすという点で何か気をつけていることはあるだろうか。
- 委) トリムコースを利用しているが、少し暗い感じがする。我が家の女性陣も行くので少し気になる。
- 委) 私もトリムコースを使うことがあるが、三日坊主になりがちで、なかなか継続できない。自分でできること、歩くことから始めなければと思いつつも続かない。
- 委) 市で4月か5月にウォーキング教室が開催されたので、それに参加したが、やは

りなかなか続かない。

- コ) 仲間がいると続くだろうか。
- 委) 友達と歩くこともあるけれど、一人で歩きたいときもある。
- 委) トリムコースなど、施設にわざわざ行くのはハードルが高い。家の近場にそういった施設があればいい。
- コ) 施設に行かなくても歩くことくらいなら家の近所でもできる。日常的なウォーキングと施設での運動とを組み合わせるといいかもしれない。

精神面、コミュニティについて

- コ) 日常的な運動という事だと、働き方の変化も関係しているかもしれない。昔は仕事で体を動かす機会も多かったが、今はデスクワークが多い。全体的には運動量は落ちているかもしれない。
- 委) 運動量については、何キロ走らなければいけないとか決めるのではなく、走っていて気持ちいいとか中身の満足度で運動量を決めたほうがいいのではないか。私は最近阿波踊りを始めたが、好きなものをやるに限ると感じている。食事でも同じことだと思っていて、食べ過ぎはよくないが、ジャンクフードだって食べていいのではないか。体の健康だけではなく、精神的な健康もあるのではないか。
- 委) 何かをやりたいと思ってもなかなか一歩が踏み出せない。今回の協議会も参加するかとても躊躇した。スポーツだと尚更で、その競技をやりこんでいる人との差もあり、初心者は入りにくい。
- コ) 本質的なことかもしれない。知らない人がいるところに入るのは勇気がいる。精神的なハードルの高さがある。
- 委) 市の広報でもイベントや教室の募集時に抽選と書いてあるケースがある。せっかく申し込んだのに、はじかれる可能性があり、応募を躊躇う。もう少し間口を広げたほうがいいのかもわからない。

今回の総括、次回の方針など

- コ) 健康という状態がどういう状態なのか考えていきたい。
また、自分と子供の健康など自分以外の健康についても考えていきたい。

第3分科会

区分	第3分科会
コーディネーター	逗子市 経営企画部 参事（秘書・広聴広報担当） 石井聡
日時	2017年7月22日（土） 15時20分～17時00分
場所	太田市役所 1階 1A会議室

主な論点

男女、年齢の違いについて

- 委) 各地区の行政センターで運動ができる設備があるが、サークルなどに参加する人はだいたい決まっている。もっと幅広い人が参加できればと思う。また、女性がほとんどで、男性が少ないと感じる。
- 委) 地域の生き生きサロンの役員をやっていたが、40人～50人くらい集まる中で男性は1割程度しかいなかったと思う。
- 市) 行政で介護予防教室を開催しているが、やはり女性の参加が多い。男性の参加者は周りとのコミュニケーションも少ないように感じる。
- 委) 人それぞれだと思うが、群馬県の県民性で女性が強いのかもかもしれない。
- 委) 男性は仕事に結びついている活動のほうが生き生きするのではないだろうか。
- コ) 年齢という観点でいくとどうだろうか。
- 委) 公共施設の利用者は子育てが終わった世代が多いように感じる。今は働き方が変わっているせいか、若い方は参加できないのではないか。
- 委) 今は夫婦共働きでないと子供二人を大学に出せない。昔と比べて共働きが当たり前になってきている。日本は裕福になって物やサービスであふれており、それが当たり前になっているように感じる。
- 委) 子育て世代のサラリーマンであるが、健康診断を年に一回受けて、多少悪い項目があっても「しょうがないかな」で済ませてしまう。よっぽど悪い値が出ないと時間が無いため対策しない。
必然性が大事だと思う。
- コ) 16歳の参加者がいるので聞きたいのだが、健康ということで考えていることがあるだろうか。友人間でも話していることはあるだろうか。
- 委) あまり考えていない。若いと健康について意識することは少ない。

食事について

- 委) 育ちざかりの子供を育てているときの食生活と子供が独立した今とでは食生活や考え方が変わってきた。
- 委) 食事について、女性は広く浅く関心を持っている人が多いと思う。
子育ての際に、子供の栄養バランスなどを考えて食事を作っている。

健康寿命について

- 委) 以前に新聞で、太田市の健康寿命が県内の平均健康寿命より低いという記事を見た。健康寿命について、市として具体的な目標を定めているだろうか。
- 市) 太田市では健康寿命について具体的な数値目標は打ち出していないが、健康寿命を延ばす項目を細分化しており、個々の要素で目標を示していきたいと思っている。
- 委) 今日の全体会で市の健康づくり計画について説明を聞いたが、県の健康づくりに関する計画もあるのだろうか。

委) : 委員、コ) : コーディネーター、市) : 市職員

市) ある。

委) 太田市は工業都市で、労働者の転入転出も多い。県レベルで健康づくりに取り組む必要を感じる。

今回の総括、次回の方針など

コ) 健康を考える上で「男女の差」や「年齢の差」というものはある。次回までに友人や家族のエピソードも聞いてきてほしい。